



核融合理論研究センターの丹下壽夫先生を偲ぶ

理学部

西川 恭治



核融合理論研究センターの丹下壽夫先生は、去る2月3日、病のため逝去された。先生は、昭和44年3月東京大学教養学部基礎科学科を卒業され、引き続き同大学大学院理学系研究科物理学専門課程に進学、49年3月、理学博士の学位を得て同博士課程を修了し、日本学術振興会奨励研究員を経て、昭和50年4月本学理学部助手に就任され、53年10月新設まもない核融合理論研究センター講師に昇任された。以来、昨年4月ご病状の悪化により休職になられるまで、一貫して核融合プラズマの理論的研究に従事するとともに、理学研究科担当教官として後進の指導育成に尽力されて

きた。その明晰にして精緻な頭脳をもって取り組んで来られた研究の成果は国内外の研究者から高く評価され、なかでも磁場を横切るプラズマの異常輸送に関する一連の研究は著名である。また、先生は、昭和47年より5年間続いた核融合理論研究集会の組織・運営に当たっては常に率先して献身的に努力され、わが国の核融合理論グループの育成に計り知れない貢献をなされた。これからの御活躍が期待されていた矢先に、志半ばにして他界された先生の御心中は察するに余りあり、ここに心より先生のご冥福をお祈り申し上げる。



占部 薫先生のご逝去を悼む

医学部名誉教授 松尾 吉 恭

広島大学名誉教授・占部薫先生は、去る3月10日逝去されました。享年83歳。ここに謹んで哀悼の意を捧げます。

先生は福山市のご出身で、昭和7年に満洲医科大学をご卒業後、同学・九州帝国大学でご研鑽、久留米医科大学教授を経て、昭和25年医学部の前身である広島県立医科大学に細菌学初代教授として赴任され、昭和45年停年ご退官になりました。この間、広島大学評議員、医学図書分館長、歯学部運営委員など学内の管理運営に多大の貢献をされました。有面では極めて厳格な先生として令名高く、多くの逸話を残しておられます。研究面では

抗酸菌を核とする細菌学の広範な分野で輝かしい研究成果を挙げられ、斯学の発展に多大の寄与をされるとともに、数多くの後進を育成指導されました。とくに非定型抗酸菌の研究は先生のライフワークで常にこの方面の指導的立場に立ってこられました。学外においても文部省学術審議会委員、日米医学協力らい専門部会員、WHOらい研究専門諮問委員会委員や各種学会の理事などの数多くの役職を果たされました。

ここに先生のお人柄とご業績を偲び、心からご冥福をお祈り申しあげます。